



公 員
高澤 議 員

新しい歴史まちづくりの構想は

歴史的風致維持の 新市街地計画は

質 問

ジオパーク理念の中に、そこで暮らしていた人たちの習慣、風俗などの分野もあるが、特に能生白山神社とその周辺地域

は、「歴史的風致維持」活動に最適なものと思われるが、当市が強力に進めるジオパークと一体となる新しい「歴史まちづくり」の構想はないか伺う。

教育長答弁

能生白山神社とその周辺には、多くの貴重な文化財が所在



昇 員
古川 議 員

中山間地での 空き家対策は

質 問

介護保険次期改定に 向けた取り組みは

高齢者数全体から見て介護認定者及び介護サービスの利用者の割合、全体の月額費用について伺う。

また、23年度に介護施設が4事業所増加するが、待機者数の減少につながるのか。昨年、須沢地区に新施設が開設されたときは減少したかを伺う。

市長答弁

高齢者数全体での介護認定者及び介護サービスの利用者

し、歴史的雰囲気を感じられるため、「歴史的風致維持向上計画」の認定を受けることも可能であるが、その前段に「歴史文化基本構想」の策定が必要であり、ハードルも高く、様々な制約も生ずることから、今後、文化庁に相談していきたい。

市立小・中学生の 学力回復状況は

質 問

当市は、日本一の子どもづくりを目指し「こども課」を

創設し前向きに取り組んでいるが、学力低下の問題は以前から指摘されており、学力の回復・向上は急務であると考える。現在どのような改善策を行い、一貫教育ではどのように進めていくのか伺う。

教育長答弁

教育委員会では、昨年度の学力調査結果を踏まえて、特に中学校における具体的な学習指導の改善に取り組んできた。

また、目標をもって主体的・意欲的に学習できるよう、新たに中学1年生を対象とする大

空き家対策は

質 問

現在各地で空き家が増加傾向であり、特に中山間地で目立ち問題となっている。当市としても早くからこの問題に対処してきたが、現在まで取り組まれてきた成果と課題、今後の情勢と計画内容などを伺う。

市長答弁

市内の空き家調査の結果、総数は1236軒である。また、市では、19年度から情報提供

学訪問や中学生全体を対象とする英語検定受験補助制度を実施し、生徒の学ぶ意欲の向上に確かな手こたえを感じている。

子ども一貫教育は、家庭・園・学校、地域が連携・協力して子どもの成長を図るものであり、知・徳・体のバランスのとれた子どもを育てるとともに、落ち着いて学習に取り組む姿勢などを身に付け、学力の向上に結び付けていくよう努めていく。

制度を開始し、累計登録数が32軒、今までに活用されたものが22軒である。

今後は、空き家所有者の理解を得て、紹介できる登録数を増やすことが課題である。

また、空き家の活用が、定住人口の増加と地域の安全や活性化につながることから、田舎暮らしの専門誌の無料広告や改修支援などに取り組み、より多くの活用につけていきたい。

《その他質問項目》

・市の景気動向、雇用、就職状況